

自主防災新聞

No. 93
2016年3月

特集

高めよう地域の防災力～若い力と共に～

自主防災組織の活性化のためには、中高生をはじめとする、若い力を活用したり、新たな防災の担い手として育成することが重要です。ふたつの先進的な事例をご紹介します。

★小中高校生によるジュニアレスキュー隊の創設(三島市シャルマンコーポ三島防災会)

シャルマンコーポは平成8年完成の12階建て分譲マンションで、232世帯、約700人が入居しています。親が働き盛りの核家族世帯が多く、小中高校生も災害時の戦力であるため、マンション内居住者にアンケートを兼ねた協力依頼を配布し、昨年度、「シャルマンコーポ三島 ジュニアレスキュー隊」を創設しました。災害時に備え、担当階を大人と分担し、主に高層階の担架搬送や、安否確認、災害後の生活用水配送訓練で活躍しています。

町内会長の声

高層階の安否確認などは、若く体力のある子どもたちが迅速に行ってくれるので頼もしい限りです。いざというときのため、引き続き訓練を実施していきたいと思います。



ジュニアレスキュー隊による担架搬送訓練の様子



水配送訓練(敷地入口から階段までバケツリレー)



上層階への搬送

★「地域防災訓練」で自主防災組織が高校に出向いて訓練

静岡県立富士宮北高等学校(平成26,27年度学校防災推進協力校)

「地域防災訓練には、小中学生に比べ、通学区域の広い高校生の参加が少ないため、高校が実施する防災訓練に自主防災組織として参加することはできないか」との提案があり、学校と自主防災組織が協力し防災訓練が行われました。

学校担当者は、「平日の昼間、自主防災組織は高齢者中心となります。今日はそのことを想定し、まず、高齢者の方が可搬ポンプのエンジンをかける姿を高校生に見て欲しかった。その後、自主防の方の指導で高校生が実際に操作することにより、高校生が防災活動に関わる必要性を実感する一つのきっかけになれば。」と語り、また高校生と自主防災組織のそれぞれにとって有効な訓練であったと話しています。



可搬ポンプの動作確認訓練



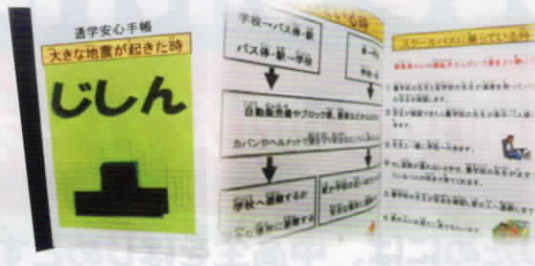
仮設トイレの設置

★子どもたちの防災力を高めるために…発達段階に応じた防災教育 静岡県立浜松聴覚特別支援学校(平成26,27年度学校防災推進協力校)

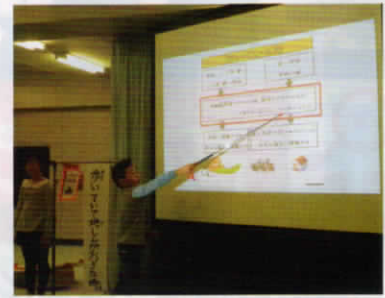
「自らの命は自ら守る力」を身につけるため、知識や能力を育てるとともに、自らの障害を踏まえて情報の収集・発信に必要な力を持てるように、幼稚部・小学部・中学部のそれぞれの学年に応じた防災の授業を実践しています。



防災ダックで安全・安心の最初のポーズ



「通学安心手帳」(筆談用の余白ページや筆記用のペンが付属しています。)



学習発表会での活用方法の説明(小学4年生)

幼稚部では、西部危機管理局の職員を講師に招き、「防災ダック」※に親子で取り組みました。

また、同校PTA交通安全部では、各公共交通機関に防災時の対応を問い合わせ、電車通学中、徒歩通学中、在宅中に地震が起きたときの身の守り方や対処方法が記載された、「通学安心手帳」を作成し、防災学習や、家族との話し合いの場で活用されています。

いざというときのためには、障害のある子どもたちが、災害を自分のこととして捉え、家庭と連携し、地域防災訓練に参加するなど、普段から地域の方々と交流をしておくことで、お互いの理解を深めることが大切です。

※防災ダックとは…

身の回りの危険や災害から身を守るため、子どもたちが実際に体を動かし声を出して遊びながら、安心・安全の最初の第一歩を学ぶことができる、幼児から小学校低学年向けのゲームです。

お問い合わせ: 日本損害保険協会 www.sonpo.or.jp/protection./bousai/duck.html



高校生被災地ボランティアに行ってきました!!

岩手県陸前高田市、大槌町

8月19日~22日に掛けて、県内の高校生32人が、岩手県陸前高田市、大槌町を訪れ、復興状況の様子やボランティア活動、仮設住宅の訪問を行いました。今回は、兵庫県立舞子高等学校と連携し、同校環境防災科より、生徒4人の参加があり、20年前の阪神淡路大震災の教訓が兵庫県の高校生にどのように語り継がれているかについても学ぶことができました。



公営復興住宅での草むしりや仮設住宅訪問(陸前高田市、大槌町)

岩手県沿岸部地図(●は訪問場所)



大槌保育園長より、震災当日の様子を聴講(大槌町)



最終日のグループワークで家族や友人に伝えたいこと、今自分にできることを発表

参加者の声

復興状況を話してくれた先生の、「お金や物資ももちろん嬉しいけど、一番嬉しいのはみなさんの気持ちです。わたしたちに心をください。」という言葉が印象に残りました。高校生のできることは限られていますが、一人ひとりが被災地の方々を思うことも、被災地への復興の手助けだと感じました。

被災地訪問という貴重な経験をした高校生が、同世代のリーダーとなり、将来、地域防災の担い手としての活躍が期待されます。

地震だ、津波だ、すぐ避難!! ~少しでも早く、少しでも高く~ 3月6日~15日は津波対策推進旬間・津波避難訓練です

静岡県では、東日本大震災が発生した3月11日を含む10日間(今年度は3月6日~3月15日)を津波対策推進旬間、3月6日を津波避難訓練の統一実施日として、津波避難路の設定・点検や、訓練を通して津波避難の習熟を進めています。詳しくは… [静岡県 津波からの避難](#) [検索](#)

具体的な実践例:逃げ地図の紹介

※逃げ地図とは…

正式には、「避難地形時間地図」といい、国立研究開発法人 科学技術振興機構や千葉大学、明治大学の研究チームが研究を進めており、的確な避難方法を検討するため、津波からの避難目標地点までの最短経路を、時間別に色塗りして可視化した地図です。

どこにいても安全に逃げられる(逃げる方向・時間が分かる)

逃げ地図完成!



STEP 1

避難ポイントにシールを貼って



STEP 2

ヒモで長さを測って、避難にかかる時間が分かるように道路に色塗り。



避難する方向を矢印で書き込むと…

河津町立南小学校の取組

河津町立南小学校では研究チームが事前学習から関わり、地域住民と共に逃げ地図づくりに取り組みました。児童をはじめ参加者は、どこへ、より安全に、何分で、どの方向へ逃げるのがいいのかや、自分の地域の災害リスクを住民で話し合うきっかけとなりました。



逃げ地図づくりの様子

詳しくは…子ども安全まちづくりパートナーズまで(<http://kodomo-anzen.org/>)



地域防災活動推進委員の取組

谷村彦太郎委員:伊豆市

推進委員会の今年の年間テーマである、「地域防災の主役である自主防災組織と様々な組織・団体との平時からの連携」について、まずは市役所ご協力のもと、市内の自主防災組織を対象にアンケート調査を実施させて頂きました。結果、市内の自主防災組織の中で連携を持っている組織数は少なかった一方、連携をとっている例としては、老人ホームと災害時要支援者の避難場所について協定を結ぶなど、自主防災組織でもできることから取り組んでいる姿が伺えます。

また、市の社会福祉協議会に「災害ボランティア登録制度」が設けられており、この制度は市民などの登録者が発災後の活動で、土地勘等のニーズを有効的に活用出来るよう考えられた制度であり、自主防災組織としても、この制度と地区自主防災組織との間で何らかの連携が取れないか、現在方法を模索中です。

平成25年度の災害対策基本法の改正により「地区防災計画」が新たに創設され、今年度自分たちの修善寺ニュータウン地区が内閣府の「地区防災計画モデル地区」に選ばれました。現在、~近所づきあいと災害に強いまちづくり~を目指して「地区防災計画」を作成中です。今後も伊豆市自主防災会の代表として、また、県推進委員として他地域の参考となれるよう取り組んでいきたいです。



自主防災会打ち合わせの様子(筆者右から二人目)

地区防災計画制度とは…

これまで策定されてきた、国レベルの防災基本計画と、県、市町レベルの地域防災計画に加え、地域住民が、災害対策を円滑に進めるため、地域の特性に応じたコミュニティレベルの防災活動を内容とする計画(=地区防災計画)を策定する、地区防災計画制度が制定されました。

詳しくは、

[みんなで作る 地区防災計画](#) [検索](#)

新年度、新生活を迎える皆さん! 我が家の安心・安全を自ら考えてみて下さい!



予想される南海トラフ巨大地震などの大規模地震から我が身を守るためには、住宅の耐震化や家具の固定が必要不可欠ですが、この春、引っ越しなどで新生活を迎える方は、この機会に、転居先で予想される危険、避難場所などを把握し、家具の固定や配置を考えるなど、新しい場所でも安心して生活できるようにしましょう!!

新生活を迎えるにあたって、静岡県で発行しているリーフレットを使って下さい

- 地震防災対策、何をすればいいの?
…家庭内対策(自助)チェックリストでできることから始めよう!
- 新しい住まい、家具の配置を考えたい
…家庭内DIGを使って危険を予防しよう!
- 地震が起きたとき、家族と連絡を取るためにどうすればいいの?
…命のパスポートで、家族の連絡先と避難場所をメモして携帯しておきましょう。



※上記のリーフレット、資料は各市町、各地域の危機管理局等、地震防災センターで配布しているほか、静岡県危機管理部のホームページで公開しています。
静岡県危機管理部ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai>

平成27年度静岡県地域防災活動知事褒賞

平成27年度静岡県地域防災活動知事褒賞を、以下の方々が受賞し、平成27年11月15日(日)に下田市の下田セントラルホテルにおいて開催した「平成27年度自主防災活動推進大会」で表彰を行いました。



自主防災組織の部 (7団体)	蓮台寺区自主防災会	(下田市)
	北川地区自主防災会	(東伊豆町)
	岩地区自主防災会	(松崎町)
	大田子自主防災会	(西伊豆町)
	興津東町自主防災会	(静岡市)
	藤岡自治会自主防災会	(藤枝市)
	小池町自主防災隊	(浜松市)
自主防災組織役員部の部 (7名)	内田 敬治 (沼津市/門池地区連合自治会自主防災会)	
	中田 剛充 (熱海市/伊豆山浜町自主防災会)	
	安藤 仁 (熱海市/上紅葉ガ丘町自主防災会)	
	加藤 崧 (富士市/天間地区及び天間北2区)	
	植松 益雄 (富士市/富士川地区相生町)	
	小野 皓 (浜松市/浜松市自主防災隊連合会)	
	坂田 英夫 (浜松市/浜松市自主防災隊連合会)	

学校の防災活動の部 (6校)	牧之原市立片浜小学校	(牧之原市)
	吉田町立吉田中学校	(吉田町)
	掛川市立大須賀中学校	(掛川市)
	浜松市立東部中学校	(浜松市)
	静岡県立下田高等学校	(下田市)
	学校法人松薫学園焼津高等学校	(焼津市)

また大会では、西伊豆町大田子自主防災会の事例発表や、静岡地方気象台長が、「気象庁が発表する情報とその利用方法」について、主に地震・津波の仕組みや、津波警報の発表を、東日本大震災時を例にとり、動画や時系列で解説しました。そのほか、賀茂医師会長が、「災害時の医療救護体制と市民トリアージ」について、講演しました。

★知事褒賞受賞団体等の活動内容は、危機管理部ホームページでご紹介しています。

静岡地方気象台長講演資料より⇒



防災クイズ

防災の事をしっかり身につけたら、クイズに挑戦しよう!
抽選で備蓄に役立つ保存食が当たります。

問題 ○の中に入る文字をお答えください。

高めよう地域の防災力

～○○○と共に～
前回の答えは「地震防災」でした。

新聞の中にヒントがあるよ!
当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

- 応募方法 郵便はがきに、右記の要領で記入し、お送りください。
- 応募締切 平成28年3月17日(木) ※当日消印有効

抽選で20名様に賞品を送ります。

今回は **非常食 アルファ米(100g) 7食セット**

賞味期限 **5年**

お湯または水を注ぐだけで、いつでも、どこでも美味しいご飯が食べられます。

企画・編集 静岡県地域防災活動推進委員会
発行 平成28年3月1日
静岡県危機管理部 危機情報課
TEL.054-221-2459
制作・印刷 星光社印刷株式会社
※本紙は再生紙を使用しています

クイズの答え ○ ○ ○

郵便番号
住所
電話番号
氏名
年齢
職業
感想など (調)

4208601
危機管理部 危機情報課
自主防災新聞「保行」
(調)